

那須野が原博物館 中期目標項目・自己評価シート  
第1期(平成24～28年度)

2015.8.21.確定

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	28年度目標値(5か年)	26年度目標値	26年度実績	備考	
1. 資料の収集と保存・活用							
1-1 資料の収集	収集方針をもとに寄贈・購入・採集を通して積極的かつ継続的に収集します。	収蔵資料総件数	65,047件	63,777件	72,077件	H27.3.31現在 歴史17,547件、民俗5,214件、考古4,284件 ※、美術2,836件、文学41件、地質587件、植物4,946件、動物36,622件 合計72077件 ※考古資料は集計誤りがあったための増(実際は増減なし)	
		新規収集資料件数	歴史(寄贈を除く)	65件	13件	189件	製糸関係資料、鉄道関係資料ほか
			民俗(寄贈を除く)	0件	0件	2件	謄写印刷教本
			考古(寄贈を除く)	0件	0件	0件	
			美術(寄贈を除く)	91件	18件	6件	竹工芸、錦絵
			文学(寄贈を除く)	25件	5件	1件	初版本
			地学(寄贈を除く)	150件	30件	56件	化石標本
			植物(寄贈を除く)	250件	50件	0件	
			昆虫(寄贈を除く)	1,500件	300件	0件	
			動物(寄贈を除く)	35件	7件	10件	哺乳類、両生類
			寄贈他(全分野)	—	—	942件	歴史752件、民俗14件、美術2件、文学6件、地質167件、動物1件
		合計	2,116件	423件	1,206件		
		収蔵図書総件数	12,482件	12,362件	13057件	H27.5.28現在 14,049件	
		新規収集図書件数	購入	150件	30件	43件	
寄贈・その他	—		—	949件			
1-2 資料情報の公開	収蔵資料データベースの公開を行い、研究者等による利用を促進します。	収蔵資料情報公開件数	10,000点	2,000点	3,326点	s-net登録件数H26年度星植物コレクション3,326点	
	必要な収蔵スペースを確保するとともに、収蔵庫・展示室を良好な環境に保ち、燻蒸により資料の安全な保存を図ります。	燻蒸回数	那須野が原博物館	5回	1回	1回	
			附属施設	5回	各1回	1回	黒磯郷土館(展示施設1回)旧津久井家住宅は屋根工事のため実施せず

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	28年度目標値(5か年)	26年度目標値	26年度実績	備考	
1-3 資料の適切な管理	資料の修復等を行い、資料の保存状態を改善します。	収蔵庫の増設				27年度設計 28年度本体工事 予定	
		資料の修復	歴史資料	50件	10件	15件	
			考古資料	25件	5件	3件	
			美術資料	5件	1件	0件	
		美術資料(ブロンズ化)	3件	1件	1件		
1-4 資料の活用	常設展示・企画展示等による資料の利用・公開を促進します。	展示利用率	常設展示	1.0%	1.0%	1.4%	展示件数合計／総収蔵件数
			企画展示	5.0%	5.0%	1.1%	$\Sigma$ (展示件数÷該当分野収蔵件数)×100÷展示回数
			トピックス展他	1.0%	1.0%	0.4%	$\Sigma$ (展示件数÷該当分野収蔵件数)×100÷展示回数
			黒磯郷土館	1.0%	1.0%	1.0%	展示件数／収蔵件数
			日新の館	0.5%	0.5%	0.8%	$\Sigma$ (展示件数÷該当分野収蔵件数)×100÷展示回数
	関谷郷土資料館	1.2%	1.2%	1.1%	展示件数／収蔵件数		
	収蔵資料を他の博物館・美術館等へ貸し出します。	貸出回数	—	—	7回	国立歴史民俗博物館・栃木県立博物館(2回)・月山あさひ博物館・さくら市ミュージアム・県立なす風土記の丘資料館・栃木県立美術館	
【特記事項】	資料、図書ともに既に5か年目標の数値を上回っている(寄贈分による増加の影響が大きい)。歴史資料の購入については、特別展と連動して館蔵資料の充実を図りつつ、展示したことにより、点数が多かった。資料の展示利用率は、企画展示4回中2回(華族農場展・化石展)で館蔵資料の利用が少なかったことにより、目標値よりも低い値となっている。 <補足> 平成26年3月に現代美術家の三木俊治氏より現代美術作品及び関連資料の寄贈603点を受けたが、現在登録作業を進めている段階であるため、「1-1 資料の収集」の数には含めていない。						
【課題・改善点等】	資料の収集は、多くの分野において順調な収集を続けている。後世へ地域遺産を引き継ぐという観点において、継続的な収集を行って行くことが重要であることを痛感している。収蔵庫のスペースが既に限界近くなっているため、屋外収蔵棟の増設をH27年度設計、H28年度施工の予定で進めている。H30年度の供用開始を予定しているが、収蔵環境が良ければ、H29年度の後期より資料の収蔵を考えたい。南庄作作品のブロンズ化については、最終段階に入り、早急にブロンズ化を終了し、企画展示で公開したい。収蔵資料の公開については、現在自然分野においてs-netを通じての公開を行っているが、人文分野についてもホームページを通して、公開して行かなければならない。						

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	28年度目標値(5か年)	26年度目標値	26年度実績	備考
【外部評価委員 所見】	三木俊治氏の作品及びコレクションの美術分野とともに歴史・地学・動物の各分野の収集が進んだことは喜ばしいことである。また、収蔵庫の増設が可能になれば、地域文化遺産である資料の収集・保存機能が向上し、那須野が原博物館の事業・活動を展開するうえで、資料の活用や公開に大いに期待できる。今後、ライフスタイルの変容に伴う地域文化財の散逸防止の対応や収蔵資料の情報公開機能の拡充を図り、地域文化遺産の活用や次世代継承に努められたい。					
<b>2. 調査研究</b>						
2-1 調査研究活動の推進	那須野が原およびその周辺に関する調査研究、並びに博物館学的調査研究を積極的に行います。	那須野が原博物館紀要掲載論文の件数	25件	5件	8件	
2-2 地域研究者等との協働による調査研究の推進	地域研究者を客員研究員に委嘱し、幅広い分野から調査研究を行います。	客員研究員数	10人	2人	0人	
	那須を継る事業を実施し、地域研究者による那須地方の研究成果を公開します。	地域研究者数	15人	5人	5人	
【特記事項】	那須を継る事業については、25年度・26年度の2か年事業として実施。成果として『那須をとらえる』出版及び「那須自然・文化セミナー」を26年度に実施した。客員研究員の在り方については現在検討中。					
【課題・改善点等】	博物館紀要については、調査研究の記録化を図るとともに、市民への還元を図る意味で重要な事業と位置づけ、今後も継続して行く。客員研究員を含む市民との調査・研究・教委普及活動のあり方については、博物館協議会との協議・検討材料の一つである。市民と博物館がどのような関係で活動し、地域の活性化を図って行くかを十分議論して行きたいと考えている。					
【外部評価委員 所見】	地域の調査研究は、博物館にとって大切なことである。対象地域が、那須塩原市及び那須野が原周辺と広く、現在のスタッフでは困難である。人を得ることが大切で、特に人文系学芸員の採用が必須である。					
<b>3. 展示</b>						
3-1 企画展示の開催	収蔵資料の有効活用を図るとともに、地域または各分野のテーマを深く理解するため、企画展示等を開催します。	企画展示の開催回数	25回	5回	4回	
		企画展示の観覧者数(学校を除く)	66,600人 (H28年度16,000人)	12,704人	13,732人	目標値:過去5か年のうち最多・最少を除く3か年の平均×1.1
		観覧者の満足度(平均)	90%	90%	93%	5段階評価のうち、上位2位の合計
3-2 企画展示の理解促進	図録の発行、記念講演会・展示解説等の開催により、観覧者が展示内容を理解しやすいようにします。	図録の発行件数	5件	1件	1件	図録『近代を写真せよ』
		関連事業の参加率	70%	60%	66%	農場111%、化石42%、由一44%
		参加者の満足度(平均)	90%	90%	99%	農場97%、化石100%、由一100%
3-3 常設展示の充実	常設展示の充実を図ります。					
	開館10周年に展示リニューアルを行います。				実施済み	

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	28年度目標値(5か年)	26年度目標値	26年度実績	備考
【特記事項】	常設展示のリニューアルを行うとともに、4回の企画展示(特別展:「しるしるFOSSIL-とちぎ化石発掘最前線-」・「近代を写実せよ。三島通庸と高橋由一の挑戦」、企画展:「那須野が原の華族農場」・「縄文すきだもん!-のぞいてみよう 縄文人のくらし-」)を開催。H26年度観覧者数:18,784人(うち学校見学5,052人)・利用者数33,060人。					
【課題・改善点等】	親子向けの展示は、宇都宮市の全児童へのチラシ配布(化石展)や小学生観覧無料チケット(縄文展)など、新たな広報手法を試みたが、十分な成果をあげることができなかった。また、「近代を写実せよ。三島通庸と高橋由一の挑戦」・「那須野が原の華族農場」の成人向け展示は、趣旨や魅力が市民に十分に伝わっておらず、観覧者数は伸びなかった。広報効果を踏まえた企画・運営が必要がある。また、講演会の参加は華族農場展を除くとほぼ定員の半分以下で、効果的ではなかった。H27年度より観覧者の目標値を展示ごとに設定し、課題を明確にする。					
【外部評価委員 所見】	特別展・企画展共に見学者に対して感動と関心を与える斬新な構成で、充実した展示であった。特別展は、中長期の計画のもとに、準備期間をしっかりと設け、これからも充実した展示にされたい。今後展示の切り口やアピールする部分のメリハリを工夫し、広報を含めて市民に寄り添った展示を継続して行くことが大切である。					
<b>4. 教室講座</b>						
4-1 教室の実施	子ども・親子を対象に各種教室を開催し、体験を通じた学習活動を展開します。	参加率	90%	85%	84%	土器60%、昆虫100%、化石86%、科学90%、はたおり83%
		参加者の満足度(平均)	90%	90%	97%	土器-、昆虫100%、化石95%、科学93%、はたおり100%
4-2 講座の実施	一般を対象に講座を開催し、地域の自然・文化に対する認識を深めます。	参加率	70%	60%	48%	セミナー54% 自然講座42%
		参加者の満足度(平均)	90%	90%	88%	セミナー80% 自然講座95%
4-3 博物館フェスタの実施	博物館をより身近に感じていただくために博物館フェスタを開催します。	来館者数(延べ)	1,200人	1,200人	1,116人	
		参加者の満足度(平均)	90%	90%	100%	
4-4 親子体験チャレンジの実施	創作活動を通じて、昔のくらしや自然科学への理解を促進します。	参加率	70%	60%	85%	20回実施
		参加者の満足度(平均)	90%	90%	87%	20回平均
4-5 各種普及事業の実施	シンポジウムや研究発表会を開催し、市民とともにこれからの地域のあり方を探ります。	参加率	70%	60%	62%	シンポジウム20% 研究発表会103%
		参加者の満足度(平均)	90%	90%	91%	シンポジウム100% 研究発表会82%
4-6 生涯学習活動の支援	質問や相談等に対応し、市民の生涯学習に寄与します。	レファレンス件数	100件	20件	40件	同定依頼、地域史、収蔵資料等
【特記事項】	講座として一般を対象に「那須自然・文化セミナー」・「那須塩原自然講座「自然のここが面白い!」」を開催。子ども・親子対象の教室として、「子ども土器づくり教室」・「親子昆虫教室」・「化石発掘隊」・「夏休みこども科学教室」・「子どもはたおり教室」の5コースを実施。併せて「親子体験チャレンジ」(20回)・11月3日の文化の日を中心に博物館フェスタを開催した。					
【課題・改善点等】	講座は昨年度の参加率を上回ったものの、目標値には達しなかった。これまでのリピーターは徐々に減少しているため、新たな参加者の新規開拓が急務である。親子体験チャレンジの参加は20回中10回が定員に達していた。参加率は昨年度より12%上回った一方、満足度は目標値に届かなかった。参加者層と製作の難易度との兼ね合いを検討する必要がある。セミナーの参加者は年々少しずつ減少しているので、広報等のPRのしかたを検討する必要がある。					

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	28年度目標値(5か年)	26年度目標値	26年度実績	備考
【外部評価委員 所見】	不十分な職員体制の中で、講座・教室・親子体験チャレンジなどの過重なスケジュールをこなしている現状を知り、職員の努力を評価すると同時に現状の改善を望みたい。現代人の興味の多様化が進み、講座などの参加者の減少傾向により目標値の達成が難しい側面があり、数値にあまりとらわれなくてよいのではないだろうか。次世代を担う子どもたちの参加を促すような企画を期待したい。また、広報の仕方に工夫が必要ではなかろうか。					
<b>5. 地域との連携</b>						
5-1 各種機関等との連携・協力	各種機関等と連携を図り、広範囲な活動を展開します。	連携事業件数	20件	4件	3件	ビクター展示、フリス、コンサート
	文化・自然に関する活動に対し、学術的な協力をを行います。	協力件数	30件	6件	10件	市生涯学習課、市環境管理課2名、栃木県(文化財、歴史の道、レッドデータブック2名)、鹿沼市、大田原市、那珂川町
5-2 学校教育との連携	学校による見学・体験学習の充実を図るとともに、収蔵資料の貸出し・出張授業等により学校教育の支援を行います。	学校来館数(那須野が原博物館)	500校	100校	106校	
		学校来館数(黒磯郷土館)	25校	5校	10校	幼稚園1件含む
		資料貸出件数	75件	15件	30件	ビデオ16件、民具5件、開拓9件
		出張授業件数	50件	10件	5件	開こん記念祭4件、中学校縄文1件
5-3 実習等の受け入れ	博物館実習や生徒の職場体験等を受け入れます。	博物館実習・職場体験件数	50人	10人	6人	博物館実習1人、マイチャレ5人、教員10年目研修1人
5-4 市民との協働	「那須を綴る」事業により、市民による調査・公開・編纂を進めます。		3回	1回	1回	1回/2年
	団体・研究者等との協働により、資料や情報の収集を図ります。					
	ボランティア活動を支援し、市民による教育普及活動を促進します。					
【特記事項】	自主団体である市民活動は、積極的に事業を実施している。ボランティアによる教育普及活動である石ぐら会「入門講座」、いろりの会「昔のおもちゃづくり」、那須文化研究会「講演会」、那須野ヶ原開拓史研究会「講演会」、那須野が原の自然調査会「一般向け観察会」、西那須野土器づくりの会「一般向け土器づくり教室」、語り部炉ばた「民話語り」、ジュニア生き物クラブの活動等があり、博物館が支援を行った。					
【課題・改善点等】	学校見学の受け入れは、目標値を上回っているが、学校教育カリキュラムの変更により、今後社会科見学による利用が減少すると見込まれるため、学校教育との連携を強化していく必要がある。また、市民の地域研究活動を、展示事業をはじめとする教育普及事業に活用する方法を検討する。					
【外部評価委員 所見】	ボランティアによる教育普及活動への質的・量的支援や学校の見学・体験活動の受け入れ等、学校教育との連携実績については評価できる。一方、学校教育や社会教育に対する地域意識の変容に伴い、図書館や公民館等の様々な領域の教育文化施設や高等学校・大学、専門学校等との情報交換や連携強化が望まれる。また、総合博物館として地域のニーズに合った教育普及活動を進めて行くために、各分野別の学芸員を採用したり専門的知識や技能を持つ市民を活動に招聘したりするなど、市民の博物館への興味関心を高める基盤づくりに期待したい。					
<b>6. 施設整備</b>						
6-1 施設の維持管理	施設を安全かつ快適な環境に保ち、資料の適切な保管環境を整えます。	施設の清掃、空調設備のメンテナンス及び更新				

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	28年度目標値(5か年)	26年度目標値	26年度実績	備考
6-2 危機管理体制の強化	自然災害や火災・盗難・事故等に備え、防災意識の向上と危機管理体制の強化を図ります。	防災訓練の実施回数	10回	2回	2回	
		危機管理体制の整備状況				
6-3 附属施設活動の充実	附属施設(黒磯郷土館・日新の館・関谷郷土資料館)の特徴を活かした活動を展開します。	黒磯郷土館来館者数	1,800人	1,800人	2,483人	
		黒磯郷土館来館者の満足度(平均)	90%	90%	93%	
		日新の館来館者数	1,500人	1,500人	1,383人	
		日新の館企画展の開催回数	25回	5回	5回	高久靄匡展、世界の人形展、郷土の画家展、日本の人形展、峰村北山展
		日新の館来館者の満足度(平均)	90%	90%	100%	
		関谷郷土資料館来館者数	14,000人	14,000人	9,277人	
		関谷郷土資料館来館者の満足度	90%	90%	%	回収なし
【特記事項】	施設の清掃、機器のメンテナンス及び修繕、防災訓練等を計画的に実施している。黒磯郷土館では昔のくらし体験、昔のおもちゃづくり体験を実施、日新の館では5回の企画展と草木染め、掛軸の取扱い教室を実施した。					
【課題・改善点等】	空調機をはじめとする機器に経年劣化による故障が見られ、計画的な修繕が必要である。黒磯郷土館は、旧津久井家住宅内部の見学ができなくなるため、学校見学や体験教室の実施方法について検討し、内容の充実を図る必要がある。また、3つある附属施設の役割を整理し、今後について十分なる検討が必要である。					
【外部評価委員 所見】	博物館の整備・管理は、来館者の見学や資料の収蔵・展示など目的達成に重要な意義を持っている。そのためにも、博物館の収蔵庫の拡充とともに、附属施設の役割及び保全の検討を図る必要がある。全施設に対して保全に関する取り組みを行うとともに、経年劣化による機器類の修繕等も早急に実施していただきたい。また、黒磯郷土館や関谷郷土資料館の施設については、地域文化の継承や児童の学習の場として保全管理の重視が望まれる。					
<b>7. 組織人員</b>						
7-1 効率的な組織運営	情報の共有化や事務事業の分担を促進し、効率的な運営に努力します。					
7-2 意識改革と資質の向上	職員全員が当館の使命及び目標を認識するとともに、能力開発・資質向上に努めます。					研修参加：栃博協主催1名
7-3 効果的な広報体制	各種メディア等への情報提供を積極的に行います。また、ホームページを充実し、認知度の向上を図ります。	マスコミ・メディア等の掲載回数	100回	20回	69回	新聞55回、情報誌4回、ラジオ4回、テレビ6回
		ホームページの閲覧回数	300,000回	60,000回	92,531回	
		ホームページの更新回数	240回	48回	144回	
【特記事項】	マスコミ掲載回数は、前年度に比べほぼ倍増となった。常設展リニューアル・化石展・トピックス展・三木氏寄贈などの話題が重なったことがおもな要因として考えられる。ホームページは、ソーシャルメディア(Facebook)の利用により、効率的・効果的なPRが可能となった。					

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	28年度目標値(5か年)	26年度目標値	26年度実績	備考
【課題・改善点等】	人文分野の学芸員の新規採用が重要課題である。					
【外部評価委員 所見】	<p>付属施設を含めて、学芸員並びに事務職員が不足している。博物館などの文化施設は、市民にとって最も身近な施設であり、常に行政の在り方が問われる施設である。現在、自然分野と人文分野の学芸員は在籍しているが、来年度より人文分野の学芸員が不在となる。今の職員数や体制ではすでに限界である。</p> <p>専門の学芸員・事務職員ともに充実を図り、年々多様化する市民サービスの向上に努められたい。</p>					

<p><b>【外部評価委員 総合所見・指摘事項】</b></p> <p>総合博物館として、各分野のバランスが取れた資料収集に努められたい。調査研究活動においては、専門的な知識・技能を有する市民の発掘を行うとともに研究団体の活動との連携強化を図られたい。企画展示や特別展示は、最も大切な事業の一つである。市民のニーズに応えることのできる展示をお願いしたい。また、充実した展示内容にするための資料収集・調査研究の計画的な実施、及び経費の確保に努めていただきたい。教育普及活動においては、学校教育との連携強化や生涯学習事業との連携を通しての次世代教育など、「博学連携事業」を推進していただきたい。施設整備においては、災害時の来館者や資料の安全確保のための危機管理機能を怠らぬようにしていただきたい。また、付属施設の利用状況を踏まえ運営方針の見直し・検討が必要であろう。さらに、総合博物館が健全に機能するための自然・人文系のバランスに配慮した学芸員配置を是非お願いしたい。</p>
<p><b>【博物館の対応】</b></p> <p>那須野が原博物館が総合博物館として9分野を持つが、各分野の資料収集については、バランスのとれた収集を心がけて行きたい。地域研究者との連携については、研究者や研究団体との連携・協力はこれまで同様進めて行きたい。体制づくりの一つとして、博物館協力員制度の創設があげられているが、制度を効果的に運用するための方策を十分検討していきたい。展示活動については、本年度4回の企画展を開催し、目標値5回であったが、1回少なかった。ロングランで展示できる分野については、展示期間を長くし一つの展示内容をより充実したものにすることで現在行っている。中長期的な計画を立て、展示資料の収集や事前調査を行い展示内容の充実に努めたい。また、必要な経費は実施計画や予算要求などで計上して行きたい。また、すでに当館では『博学連携資料集』等も作成し、学校に配布しているが、出張授業は少なくなっている。学校に対する働きかけをどのようにして行くかは課題であるが、学力重視への変更が影響しているとも考えられ、常に学校側の意向に沿った状況下で進むため、当館としての子どもたちに対する対応の仕方が問題になってくると思われる。施設整備に関しては、防災訓練特に消防訓練は、年2回実施しておりお客様の生命を守るとともに、火災に対応した機敏な行動の訓練を積んでいる。また、博物館自体の信頼度を増すことにもつながるものである。組織人員については、これからの人文系の事業を推進する上からも、学芸員の新規採用が望まれるところである。</p>

<p><b>外部評価委員</b></p> <p>平成27年度那須塩原市那須野が原博物館協議会委員</p> <p>植木不二夫(会長)    阿部 英一          笹沼恭欣(副会長)    田代 芳寛          伊藤 孝                川島 勝子          高根沢広之            松村 雄          木村 康夫              君島 章男</p>
--